

鉄道遺産・鉄道資産を生かしたまちづくり～平成 30 年度第一回都市地域セミナー

小松正明 公益社団法人 日本都市計画学会 北海道支部 副支部長

1. はじめに

北海道支部では、平成 30 年 11 月 10 日（土）に、道庁赤れんが庁舎二階会議室において、「鉄道遺産・鉄道資産を生かしたまちづくり」というテーマで平成 30 年度第一回都市地域セミナーを開催しました。現在北海道では JR の路線存続問題が議論されていますが、既に廃線になったところでも、鉄道関連施設を生かしたまちづくりを熱心に行っているところがあり、そうした実践活動について情報を共有し、議論を深めたものです。

今回は、この都市地域セミナーについてご紹介します。

2. 基調講演

セミナーはまず始めに釧路市立博物館学芸員の石川孝織さんに「鉄道遺産・鉄道資産の魅力向上に向けて」というテーマで講演していただきました。



写真 1 釧路市立博物館石川孝織学芸員

石川さんは、つい先日、第三回北海道遺産認定を受けた、「北海道の簡易鉄道」を紹介して、鉄道の歴史の資源性と魅力について話をしてくださいました。

北海道の簡易軌道とは、道路技術が未熟だった昭和の初期頃から、北海道開拓のために、物資や人を地域の大集積地と奥地とを結んだ簡便な鉄軌による輸送手段でした。道路技術が発達し道路網が整備されつつあった昭和 47 年までには全廃され、現存する路線はありません。

石川さんは、「道路と自動車物流の主流になった今日、開拓初期のモノを運ぶという目的から見るとすでに多くの路線で貨物列車は廃止されており、鉄道はその使命を終えた、とすら言える。しかし、現役路線には今日なりの意味を冷静に、具体的に見出すべきである。例えば、対象までにネットワークが形成された道内の鉄道は技術的な限界か

ら地形なりに作らざるを得なかったために、車窓の風景は比類ない景色を提供してくれる。速さが絶対ではない。

また、昭和末期までに多くの路線が廃止になった北海道は鉄道遺産の宝庫ということでもある。

それらには北海道の歴史物語としても文化的・社会的・観光的な価値が豊富に含まれている」と、その利用の可能性について期待を述べられました。

3. パネルディスカッション



写真 2 パネルディスカッション

セミナーの後半は、パネルディスカッションでした。パネリストには、平成 28 年に廃線となった旧 JR 増毛線の駅を復元し今年オープンさせた増毛町の堀雅志町長と、平成 20 年に廃線となった「ふるさと銀河線」を観光資源として現在も運営している、陸別町商工会の杉本武勝事務局長をお迎えしました。お二人からは、廃線後に鉄道の施設を残したり復元したりした経緯や、その効果、また設置と管理上の課題や苦勞などについてお話をいただきました。

特に、観光資源としての運営や管理に必要な予算の捻出や施設の運営を支えてくれる地元の人材の育成や確保には苦勞が多いものの、残した後には地域からも共感と活動への理解と支持が得られたという報告がありました。

4. おわりに

今回の都市地域セミナーは、北海道鉄道観光資源研究会と共催という形で、同研究会が主催して二日間にわたって実施された展示博覧会「北海道の鉄道 過去・現在・未来」の枠の中で会場と時間をお借りして実施しました。同研究会はこれまでも鉄道に関わる企画や活動で、地域の観光振興に尽力されており、今回のセミナー実施に当たっての多大なご協力に感謝申し上げます。